

価値観 (cultural value) —日本とフィリピンの大学生—

谷田恵美子* 道廣睦子* 橋本和子** 中桐佐智子*

テルマ F. コルセガ*** 岡須美恵*

* 吉備国際大学保健科学部看護学科 〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町 8

** 高知医科大学 〒783-8505 高知県南国市岡富町小蓮

*** フィリピン大学 1000 フィリッピン マニラ市ペドロ ギル街

Cultural Value -Japanese and Filipino University Students—

Emiko TANITA・Mutuko MITIHIRO・Kazuko HASHIMOTO

Satiko NAKAGIRI・Sumie OKA

Thelma F.CORCEGA

*Department of Nursing, School of Health Science, KIBI International University

8,Iga-machi, Takahaschi-city, Okayama(〒716-8508) Japan

** Department of Basic Nursing Science, School of Nursing, Kochi Medical School

Kohasu, Oko-cho, Nankoku ? shi, Kochi, 〒783-8505 Japan

*** University of The Philippines Manila, College of Nursing

Pedro Gil St. Ermita, Manila 1000 Philippines

Abstract

This report (2001) is a comparative study of common cultural value between K (university students in Okayama Pref. Japan : 568) and P (university students in the Philippines Manila : 686).

The result concerning common cultural value (seven items : obey authority, justice, traditional custom, and the base of own action) was as follows.

1. The Philippines students are more on the authority compared to Japanese students.
2. Regarding the sense of justice students of both show a similarly tendency.
3. Japan students was not supportive of traditional custom, while Philippines students showed no clear tendency
4. Japan students was not supportive of free activities time, Philippines students was supportive of suspecting others.

This report does not necessarily represent common cultural value in Japan students and the Philippines students, but shows the feature of thoughts. This result is made the best use of for nursing and the nursing education in the future.

キーワード : 価値観、日本人、フィリピン人、大学生

Key words: cultural value, Japanese, Filipino, University students,

はじめに

価値観は考え方や行動の基盤となる。価値観はこれと一言では表現はできない。価値観に関する研究、健康、QOL、自己、家族、地域、経済、関係等が多く調査され報告^{1)~13)}がされている。

中でも日系の外国人に調査¹⁾では価値観のあまりの違い、調査結果の予測と結果の違いに驚かされた。あらためて、自分自身の考え方は身近な地域の人々と考え方の違いはあるが、まあ同じ傾向を示し違和感を持つことは少なかったが、外国の人々は違った価値観の中で考え・行動していることを実感した。

国際化が進む現在、身近にも多くの外国人が暮らしている。これからさらに国際化が進むであろうと予測できる。それに伴って看護界¹⁴⁾でも、外国の人々が看護の対象なるさらには看護職として活躍する可能性がさらに多くなっていくと思われる。人材を育てる看護教育の上からも自分達の価値観だけでなく多様な価値観を知り、理解して看護に活かしていく必要がある。地域・国の違いを考慮したすなわち文化多元主義を尊重した意識が根底に必要である。

日本とフィリピン関係を見ると、多く労働者を外国に出しているフィリピン人は'99年に在日しているのが11.6万人で、日本からのフィリピンへの入国は'99年には約39万人であり交流は活発であると言えよう。

研究の目的と方法

研究目的：日本とフィリピンの大学生における価値観の違いを知る。

研究方法：質問紙による自己記入調査

研究対象：PhilippinのP大学(以後フィリピン)と日本のK大学生(以後日本)にアンケート調査を依頼した。

調査期間：フィリピン：2000年6月、日本2001年6~7月

有効回答：調査意向を説明し、協力を得られた学生

有効回答数はフィリピン：686、日本：568

調査分析：計算ソフトSPSSを使用

調査項目：価値観(Outlook on value)には権威、正義、慣習、自己行動の基盤となる7項目を選択した。

価値観 (Outlook on value)

- 1) 子供に与えるべき最も大切なことは両親に対する絶対服従である。
- 2) 権威ある人々には、常に敬意を払わなければならない。
- 3) 目上の人には正しいと思っていることでも、間違っていると思うことでも従わなければならない。
- 4) 伝統や習慣に従ったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題を起す。
- 5) 女性が本来すべきことは、子育てや家事である。
- 6) 自分が困らない限り、好きなことを何でもやってよい。
- 7) 用心していないと人につけこまれる。

四者択一

- ①まったくそう思う、②少し思う③あまり思わない④そう思わない

回答を点数化

まったくそう思う/1点、少し思う/2点 あまり思わない/3点 そう思わない/4点

調査対象の背景

清水展によれば Philippin では¹⁵⁾『人間関係の円滑さ』が価値と重要であり、そのために『パキキサマ(他人に合わせること)』『ヒヤ (恥)』『ウータン・ナ・オプロ (恩)』などの価値と、婉曲な物言い、仲介者の活用が不可欠であると説明し、日本の価値意識と似ているとしている。

フィリピンと日本の関係等は次のようにまとめることができる。交流は年々多くなっている。

表1 フィリピンと日本の関係

1. 政治関係	両国においては政治的に懸案事項は存在せず、活発な貿易、投資、経済協力関係を背景に、両国の友好関係は極めて良好。
2. 経済関係	(1) 貿易品目 輸出 半導体、電気機器・部品、ワイヤーハーネス 輸入 電気機器用部品、乗用車用部品、コンピュータ用部品 (2) 貿易額 (比側統計、億ドル) 輸出 36.7 (96年)、41.9 (97年)、42.3 (98年)、46.6 (99年) 輸入 71.3 (96年)、74.1 (97年)、60.4 (98年)、61.3 (99年) 収支 -34.6 (96年)、-32.2 (97年)、-18.0 (98年)、-14.7 (99年) (3) 我が国からの対比投資 (比側統計、億ペソ) (イ) 直接投資 15.1 (96年)、37.2 (97年)、27.8 (98年)、19.8 (99年) (ロ) 輸出加工区への投資 96.9 (96年)、255.7 (97年)、250.5 (98年)、95.0 (99年)
3. 文化関係	(1) 国際交流基金の対比事業実績 (金額ベース) は、98年度 200万円。00年5月1日現在の国費及び私費を含めた在日フィリピン人留学生数は477名 (うち国費330名)。 ・フィリピン元留学生連盟は傘下に7組織を数え、計1万人を超える元留学生が参加。青年交流としては、東南アジア青年の船、青少年招聘事業、また、地方自治体及び民間レベルの青少年交流など、日比間の青少年交流は多数にのぼる。 (2) 我が国の対比文化無償援助協力は、76年より開始され、99年度までに40件で総額16.6億円を供与。 ・我が国はフィリピンにおいて、毎年2月を「日比友好月間」と名付け、日本文化・芸術の紹介等を通じて相互交流積極的に図っている。対日関心の高まりを反映して日本語学習希望者は増加、99年調査によれば全国58の教育機関で約8千名が日本語を受講。 (3) 比において、日本研究を実施している高等教育機関としては、フィリピン大学、アテネオ・デ・マニラ大学、デ・ラサール大学等が挙げられ、未だその研究者の層は薄い、着実に若手の学者が育っている。なお、日比双方の研究者が共同して「日比交流史編纂事業」が現在進められている。
4. 在留邦人数	8,728名 (99年10月現在) 99年の比への邦人入国者数は約39万人で前年比7.2%増を記録
5. 在日フィリピン人数	115,685名 (99年外国人登録数) 韓国・朝鮮、中国、ブラジルに次いで第4位。

地域に密着した balan gay などを中心に保健活動が進められている。

表2 フィリピンの主要社会開発指標

	90年	最新年		90年	最新年
出生時の平均余命 (年)	64歳	68歳 (97年) *日本 男77.19歳 (97年) 女83.82歳	嬰兒死亡率 (1/1000人)	69	35 (97年) *日本 3.7 (97年)
所得が1ドル/日以下の人口割合 (%)	-	26.9% (94年)	5歳未満児死亡率 (1/1000人)	43	41 (97年)
下位20%の所得又は消費割合 (%)	5.9% (94年)	5.9% (94年)	妊産婦死亡率 (1/10万人)	100 (80-90年平均)	210 (90-97年平均) *日本 6.3 (97年)
成人非識字率 (%)	10	5% (95年)	避妊法普及率 (15-49歳女性%)	45 (80-90年平均)	48 (90-98年平均)
初等教育純就学率 (%)	99	101 (96年)	安全な水を楽しむ人口割合 (%)	81 (88-90年平均)	83 (96年) *日本水道普及率 96.0%
女子生徒比率 (%)	初等教育 48 中等教育 -	-	森林面積 (1000km ²)	78	68 (95年)

調査対象の背景は次のようである。

表3 年齢

Philippin n=686			日本 n=568		
歳	人	%	歳	人	%
無答	5	0.7	無答	2	0.4
15歳	5	0.7	18歳	75	13.2
16	84	12.2	19	160	28.2
17	187	27.3	20	160	28.2
18	172	25.1	21	96	16.9
19	120	17.5	22	53	9.3
20	71	10.3	23	11	1.9
21	32	4.7	24	4	0.7
22	7	1.0	25	2	0.4
23	2	0.3	26	3	0.5
24	1	0.1	28	1	0.2
			29	1	0.2

表4 性別

	Philippin n=686		日本 n=568	
	人	%	人	%
N.A.	8	1.2	4	0.7
Male 男性	130	19.0	233	41.0
Female 女性	548	79.9	331	58.3

表5 所属学部

	Philippin n=686		日本 n=568	
	人	%	人	%
Nursing 看護学科	217	31.6	167	29.4
Physical therapy 理学療法学科	131	19.1	129	22.7
Occupational therapy 作業療法学科	79	11.5	113	19.9
Social Science 社会学部	42	6.1	159	28.0
Arts and Sciences	217	31.6		

表6 宗教

	Philippin n=686		日本 n=568	
	人	%	人	%
無答	8	1.2	12	2.1
Buddhism (Please specify) 仏教	2	0.3	168	29.6
Christianity (Please specify) キリスト教	645	94.0	8	1.4
Others (Please specify) その他	24	3.5	17	3.0
None なし	7	1.0	363	63.9

表7 収入 (重複回答)

	Philippin n=686		日本 n=568	
	人	%	人	%
仕送り	676	98.5	441	77.6
アルバイト	20	2.9	180	31.7
奨学金	37	5.4	91	16.0
その他	8	1.2	52	9.2

表8 住居

	Philippin n=686		日本 n=568	
	人	%	人	%
無答	1	0.1		
自宅	407	59.3	99	17.4
下宿(寮・マンション)	249	36.3	468	82.4
その他(親戚等)	29	4.2	1	0.2

表9 健康状態がよい。 n=568(%)

	①いつも 思う	②しばしば 思う	③たまに 思う	④まったく 思わない	無答
日本 n=568	19.7	39.6	29.8	10.7	0.2
Philippin n=686					

表10 家族形態

	日本 n=568	Philippin n=686
①二世代 (親と子供)	61.4	71.7
②三世代 (祖父母と親と子供)	35.4	19.8
③四世代 (祖父母と親と子と孫)	1.2	4.7
④その他	1.2	2.3
無答	0.7	1.5

表11-① 看護職に関する意識

n=568

	①まったく そう思う	②少し 思う	③あまり 思わな	④まったそ う思わない	無答
1) 看護職は専門職である。	66.5	24.6	4.4	3.5	0.9
2) 経済的に安定した職業である。	31.3	48.2	16.0	3.5	0.9
3) 社会的評価が高い職業である。	29.0	44.7	22.7	2.6	0.9
4) 医師の助手的な職業である。	13.9	42.4	31.3	11.4	0.9
5) 女性に適した職業である。	13.9	40.8	34.7	9.9	0.7
6) 社会に貢献できる職業である。	62.7	30.3	4.4	1.8	0.9
7) 汚い仕事である。	3.9	19.4	37.5	37.9	1.4
8) きつい仕事 (仕事が忙しい) である。	63.6	28.5	4.4	2.8	0.7

Table 11-② Items concerning Nursing

n=686

	① strongly agree	② agree	③ disagree	④ strongly Disagree	NA
1) Nursing is a profession.	56.7	38.3	2.6	1.0	1.3
2) It is economically productive.	33.5	54.4	9.8	0.4	1.9
3) It has a high social value.	39.3	53.8	5.7	0	1.3
4) It is a doctor's assistant job.	13.0	46.9	28.7	9.8	1.6
5) It is suitable for women.	10.5	47.4	29.4	10.8	1.9
6) It contributes to national development.	44.5	51.6	2.2	0.3	1.5
7) It involves doing lowly/dirty work.	4.4	24.1	44.9	25.1	1.6
8) It is physically exhausting.	29.2	57.3	10.6	1.5	1.5

調査結果・考察

調査の結果は表 12-①②であった。

表 12-① 日本の価値観

n=568(%)

	①まったく そう思う	②少し 思う	③あまり 思わない	④まった そう 思わない	無答
1) 子供に与えるべき最も大切なことは両親に対する絶対服従である。	2.3	12.5	36.4	48.6	0.2
2) 権威ある人々には、常に敬意を払わなければならない。	8.6	33.6	39.3	18.3	0.2
3) 目上の人には正しいと思っていることでも、間違っていると思うことでも従わなければならない。	2.6	17.4	41.5	38.2	0.2
4) 伝統や習慣に従ったやり方に疑問を持つ人は結局は問題を起こす。	5.5	21.8	53.8	19.4	0.2
5) 女性が本来すべきことは、子育てや家事である。	2.5	12.0	39.8	45.2	0.5
6) 自分が困らない限り、好きなことを何でもやってよい。	4.6	16.5	45.1	33.5	0.4
6) 自分が困らない限り、好きなことを何でもやってよい。	17.1	40.8	32.6	9.3	0.2

Table 12-② Outlook on value of Philippin

n=686(%)

	①strongly agree	②agree	③disagree	④strongly disagree	n. a.
1) The most important thing to teach the child is to obey the parent unconditionally.	17.3	48.7	28.9	4.1	1.0
2) It is necessary to always pay respect to people in authority.	39.8	52.6	5.8	0.6	1.2
3) It is necessary to follow one's superior even if you think his ideas are wrong.	1.2	8.2	58.9	30.8	1.0
4) A person who feels doubtful about the way to follow traditions and customs will have a problem.	5.2	47.5	42.6	3.1	1.6
5) The women's traditional and main role is to bring up children and do housework.	4.1	33.7	35.7	24.5	2.0
6) You can do anything you like regardless of what others like as long as you do not have problems.	15.2	45.0	30.0	8.2	1.6
7) Others will take advantage of you if you are not careful.	35.4	57.9	5.0	0.9	0.9

表13 Philippinと日本の価値観の平均値と標準偏差

	日本		Philippin		Philippin
	平均値	平均値	平均値	S D	F 値
1) 子供に与えるべき最も大切なことは両親に対する絶対服従である。	3.31	2.18	2.18	.79	633.3***
2) 権威ある人々には、常に敬意を払わなければならない。	2.67	1.65	1.65	.88	567.1***
3) 目上の人には正しいと思っていることでも、間違っていると思うことでも従わなければならない。	3.15	3.17	3.17	.81	0.2
4) 伝統や習慣に従ったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題を起こす	2.86	2.40	2.40	.79	116.7***
5) 女性が本来すべきことは、子育てや家事である。	3.27	2.77	2.77	.80	101.5***
6) 自分が困らない限り、好きなことを何でもやってよい。	3.07	2.28	2.28	.84	259.7***
7) 用心していないと人につけこまれる。	2.34	1.70	1.70	.87	231.3***

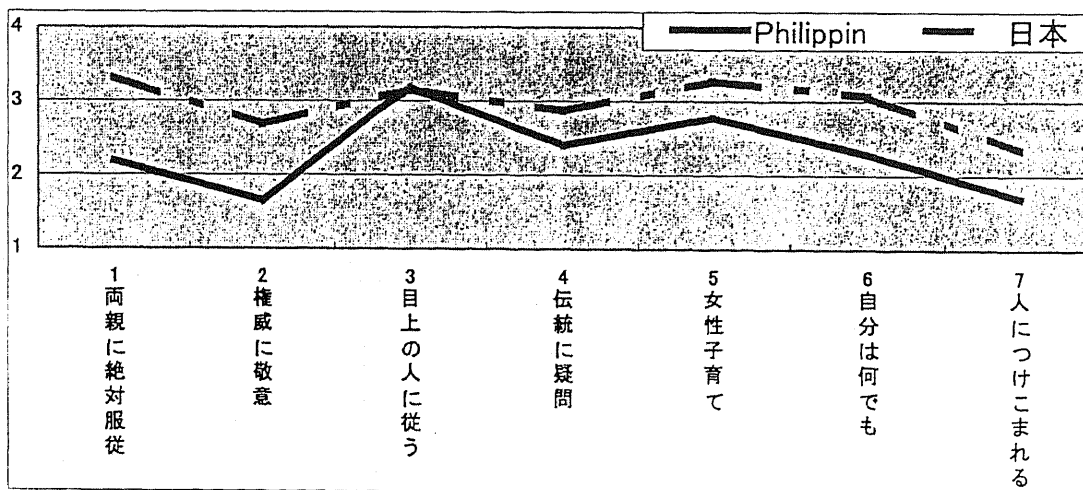


図1 Philippinと日本の価値観の平均比較 1まったくそう思う ~ 4.まったそう思わない

日本とフィリピンに関しては単純集計、看護、家族、セルフエスティムなど報告 16)~21)をした。ここでは価値観 (権威・正義・慣習・自己行動の基盤) について報告する。

日本ではおおかたが大学進学する時代である。調査の大学生は岡山県の中山間地域の私学に通う大学生である。素朴な学生が多く、金銭的に苦労しながら学業を進めている。一方フィリピンでは路上生活をする者が多いなか調査の大学生は、国立大学で学ぶエリートコースを進む学生で金銭的にも裕福な層であると考えられる。

他の報告では日本は全体的に正規分布傾向が強く、中庸的なすなわち中間的傾向意識傾向が強い結果である。すなわち日本では他者との極端な違いを強調することはその集団からの排除を意味することがあり中庸的結果に落ち着くようであるが、価値観に関してはどちらかと言えば意思表示が明確であった。

権威に関する「1 子供に与えるべき最も大切なことは両親に対する絶対服従である」「2 権威ある人々には、常に敬意を払わなければならない」について

日本では「1 子供に与えるべき最も大切なことは両親に対する絶対服従である」は否定的な回答に集中している。女性がより否定的である。学科では社会学部がやや肯定的であった。親・目上の人に対して脅威・従うべきだとは考えていない。親・教員を友達感覚でとらえる姿を良く目にすることからもこのことは妥当であろうと言えよう。「2 権威ある人々には、常に敬意を払わなければならない」肯定・否定が約半々である。権威に関して考え方にバラツキが見られ、すなわち多様性があると考えられる。学科では「まったくそう思う」8.6%であるが社会学部は15.1%と高い。

フィリピンでは「1 子供に与えるべき最も大切なことは両親に対する絶対服従である」は肯定的な回答が多い。学科で見ると「まったくそう思う」が、平均17.3%のなかで Social Science が23.8%と多い。「2 権威ある人々には、常に敬意を払わなければならない」肯定的回答に集中している。「まったくそう思う」が平均39.8%に対して学科をみると Nursing が52.5%と高い。Nursing は権威や伝統・習慣に影響を意識してケアに取り組む傾向が強いようである。歴史的背景他国の支配下の長年置かれていた状況のため権威に対しては素直な面があるようである。

日本とフィリピンをくらべると、両親に対する意識の差が大きく出ている。すなわち日本でも家意識が強い時代に、両親は大きな力として君臨していた時代は絶対服従であったが、現代では親は自分のためにしてくれるのは当然であり、両親には自分のことに関しては自分でして欲しい、さらに両親に対して尊敬して接するよりは友達感覚の傾向を示していると言えよう。しかし、フィリピンはまだ家族さらには親戚を含む家族形態が維持され、さらに両親の権威も維持されていると思われる。明らかにフィリピンが権威に対して肯定的な回答が多い。歴史的背景他国の支配下の長年置かれていた状況のため権威に対しては素直な面、すなわち生きていく知恵であったと思われる。日本では権威ある人と自分との関係は意識することは少なく、フィリピンでは政権イコール日々の生活が大きく左右された結果、すなわち日々の生活が政権に大きく翻弄されてきた背景も無視できないであろう。

正義すなわち「3 目上の人には正しいと思っていることでも、間違っていると思うことでも従わなければならない」

「3 目上の人には正しいと思っていることでも、間違っていると思うことでも従わなければならない」は日本もフィリピンも否定的な回答に集中している。1 元配置分散分析を見ると日本とフィリピンとの有意差は見られなかった。すなわち正義に対しては両国とも前向きな姿勢が伺える。

フィリピンを性別から見ると「あまり思わない」「まったそう思わない」が男性の85.4%、女性の90.7%と女性が多く、女性の方が、正義感が強い。

慣習に関して「4 伝統や習慣に従ったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題を起こす」「5 女性が本来すべきことは、子育てや家事である」

日本「4 伝統や習慣に従ったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題を起こす」やや否定的である。

伝統・習慣に関して見直す姿勢が高いと考えられる。「5 女性が本来すべきことは、子育てや家事である」は否定的な回答に集中している。学科で見ると社会学部がやや肯定的な傾向が見られた。子育て・家事は女性の仕事とは考えていない。すなわち家庭内の性差はなくなっている傾向のあらわれと考えられる。拡大解釈をすると男女共に活躍する、産業への貢献を意味していると考えられる。

フィリピン「4 伝統や習慣に従ったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題を起こす」は肯定的・否定的考えがほぼ半分である。学科で見ると「少し思う」が大きな山になっているのは Nursing が 56.2% と Arts and Sciences が 47.5% である。「まったくそう思う」が男性の 11.5% にたいして女性は 3.6% と少ない。「まったくそう思わない」が男性の 15.4%、女性の 26.8% と性差が見られ、と女性の方が自由な考えかたをしている。「5 女性が本来すべきことは、子育てや家事である」に関しては「①まったくそう思う」以外の回答に分散している。このことは価値の変化期とも言えよう。

今までの伝統や生活習慣にたいして日本では否定的な傾向が強いが、フィリピンでは回答が分散し多様な考えが出つつあると考えられる。

自己行動の基盤「6 自分が困らない限り、好きなことを何でもやってよい」「7 用心していないと人につけこまれる」

日本「6 自分が困らない限り、好きなことを何でもやってよい」では否定的な回答に集中している。日本のうち以外すなわち外そとの対応、言い換えれば「他人に迷惑をかけない」社会的ルールはまだまだ存在していると考えられる。「7 用心していないと人につけこまれる」肯定・否定が約半々である。健康状態が良い人がより否定的である。他人を信用する傾向が強い。日本の治安の良さが背景にあると考えられる。このことは国際社会では生きていく場合マイナスになると考えられる。

フィリピン「6 自分が困らない限り、好きなことを何でもやってよい」は肯定的・否定的な考えがほぼ半分である。自由な意識と集団内でのルール意識すなわち抑制の両面が問われ意見のばらつきが見られる。「まったくそう思う」が平均 15.2% の中で、下宿生が 20.9% と高い。下宿生はまわりからの抑制が少なく、自由に日々を過ごしている様子が伺える。「7 用心していないと人につけこまれる」肯定的回答に集中している。平均 35.4% にもかかわらず学科を見ると「まったくそう思う」が Nursing が 41.5% と高い。

おわりに

本調査 (2001 年) は日本の岡山県中西部の K 大学生 568 人とフィリピンの P 大学生 686 人の比較である。価値観 (権威・正義・慣習・自己行動の基盤の 7 項目) に関する結果は次のようであった。

1. 権威に対してフィリピンがより肯定的である。
2. 正義感に関しては両国とも同じ傾向であった。
3. 慣習・慣習に関して日本は否定的で、フィリピン肯否が分かれた。
4. 他人への迷惑がかかることに関して日本は否定的であり、他者を疑うことに関してはフィリピンが肯定的であった。

これらが全て、本フィリピンの大学生を代表するとは言いがたいが、日本とフィリピンの大学生の傾向が読み取れる。この結果は、今後の看護・看護教育に活かしていきたい。

今後、価値観の視点に検討加えるとともに他の学生さらには他世代に調査を広げて行きたい。調査に協力してくださった人々に感謝申し上げます。

参考・引用文献

- 1) 米村昭二 谷田恵美子(2000)日系ブラジル人労働者の社会的、文化的適応 平成 9.10.11 年度科学研究費補助金基礎研究(b)(1) 研究課題番号 09410062 研究代表 米村昭二 「日本における外国人労働者の国際結婚—職業的・文化的・社会的適応—」
- 2) 電通総研 価値観国際比較 <http://www.dihs.dentsu.co.jp/japanese/research/v/v7.html>
- 3) Yates QOL の定義 http://www.igaku-shoin.co.jp/04nws/news/n2000dir/n2386dir/n2386_03.htm
- 4) 池上直己・福原俊一・下妻晃二郎・池田俊也(2001)臨床のための QOL 評価ハンドブック、医学書院、東京、5p
- 5) 黒田裕子(1992)クオリティ・オブ・ライフ(QOL)-その概念的側面- 看護研究 25(2):2-10
- 6) 福本安甫・金城利雄(1997)QOL の評価からの考察 吉備国際大学保健科学部研究紀要 第2号:107-118
- 7) 近藤勉、鎌田次郎(1998)現代学生の生きがいとスケール作成, 健康心理学 11(1):78-72
- 8) 東京都老人総合研究所(1998)サクセスフル・エイジング, ワールドプランニング, 東京, pp47-52
- 9) 古谷野亘・岡村清子他(1995)都市中高年の主観的幸福感と社会関係に関する要因, 老年社会科学 16(2):115-124
- 10) 村松公蔵・小澤利雄(1995)老人の情緒に関する評価, Geriatric Medicin 32(5):541-546
- 11) 山田皓子(1997)脳卒中発症者の主介護者における生活全体の満足度とその関連要因, 老年社会科学 18(2):134-146
- 12) 田崎美弥子他(1997)WHO-QOL26 手引, 金子書房、東京
- 13) 谷田恵美子(2002)「生活充実・満足」の構造分析から見た日本・内蒙古・広東の高齢者の特徴 インターナショナルNursing Care Research 1(2) pp17-26
- 14) 近藤潤子・津島ひろ江(2001) 3. 看護および看護学教育の国際交流, 日本私立学校大学協会平成 12 年度報告 pp55-66
- 15) 大野拓司・寺田勇文編著(2001) 現代フィリピンを知るために p64 明石書店 東京
- 16) 谷田 恵美子, 橋本和子, 道廣睦子, 岡須美恵, 中桐佐智子, Thelma F. Corcega(2001)日本とフィリピンにおける大学生の価値観に関する意識の比較-単純集計報告- 吉備国際看護研究会 A4 版 48p
- 17) Thelma Corcega, Emiko Tanida, Mutuko Mitchichiro, Kazuko Hashimoto, Sachiko Nakagiri, Sumie Oka (2002) Filipino and Japanese Students' Perceptions of the Self, Family, Elderly, and Nursing インターナショナルNursing Care Research 1(1) pp3-51
- 18) 橋本和子, 谷田 恵美子, 道廣 睦子, 中桐佐智子, 岡須美恵(2002)日本とフィリピンの大学生の Self-Esteem に関する意識 インターナショナルNursing Care Research 1(2) pp75-79
- 19) 中桐佐智子・道廣睦子・橋本和子・谷田恵美子・岡須美恵(2002)日本とフィリピンの大学生の介護意識の比較 日本看護学教育学会誌 12 p89
- 20) 道廣睦子, 谷田恵美子, 橋本和子, 中桐佐智子, 岡須美恵 (2002)日本とフィリピンの大学生の家族背景と家族意識の比較 インターナショナルNursing Care Research 1(2) pp49-56
- 21) 遠藤明美・谷田恵美子・後陽子 (2002) 「生活の満足感」から見た世代ごとの特徴、日本看護研究学会雑誌 25(3):141
- 22) 厚生省監修 平成 12 年版 厚生白書 ぎょうせい